

平成21年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校(平成22年3月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

全学年で392通の回答があった。今回は396通のアンケートを配布したので、回収率は99%である。
生徒の教育活動に対する評価は、全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。「授業の内容はよく理解できる。」の項目で肯定的意見が60%、「学校全体で部活動は充実している。」では72%、「毎日の学校生活が楽しい」で、74%となっている。しかしながら、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」では肯定的意見が37%、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」では37%、「先生は誰に対しても公平である。」では38%、「進路に関する情報を十分提供してくれる。」では45%、と低い割合になっている。進路指導に関わる部分は上級学年になるに従い評価はよくなっている。今後さまざまな指導や取り組みを工夫改善しなければならない。

II. 保護者のアンケートより

全学年で335通の回答があった。今回は396通のアンケートを配布したので、回収率は85%である。回収率が、昨年度より8%上昇したことは評価できる。
保護者の教育活動に対する評価は、進路情報の以下の項目で肯定的意見が50%以下であった。「子どもたちの将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。」の肯定的意見が39%、「本校の職員は、親身になって進路の相談にのっている。」は49%である。全体的には、昨年度と同様に、肯定的回答の割合が高く、特に、3.学校行事、6.学校運営、7.教職員、9.広報活動・情報提供、11.学校全般については6割～8割の肯定的回答が寄せられ、同じ傾向を示している。

III. 地域の方のアンケートより

学校協議会委員(警察、出張所、消防、町会長、青少年委員)など54名にアンケートを送付し、30名から回答をいただいた。回収率は、56%である。
地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答を寄せられている。しかしながら「分からない」との回答も昨年度同様に多く、情報提供に関しての改善が必要である。
「本校のホームページは充実している」では肯定的な回答が80%と高い評価を得ている。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

今年度より、「学校の重点目標が明確である」という評価項目が保護者・地域へのアンケート、全方位的な点検・評価に設置された。肯定的な評価は、保護者において60%、地域において86%、教職員(「前年度の学校評価を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している」)において89%であり、満足できるものといえる。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・地域・保護者ともに肯定的な割合は60%前後であり、全体としてみると満足なものといえる。
- ・保護者における学校協議会の項目は肯定的評価が41%に対し、わからないという評価が43%と他の項目と大きく異なる結果を示している。
- ・情報発信として、ホームページは地域に対して有用なものといえる。
- ・PTA活動へは、大変良好な評価を得ている。保護者の学校への協力体制ができていているものといえる。
- ・地域活動・人材活用等において、教職員の評価に比べ、地域・保護者の評価が高いとはいえない。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・概ね良好な評価である。
- ・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価は、19年度、20年度より評価が高まっているといえるが、満足とはいえない。
- ・学習指導においては、生徒「授業の内容がよく理解できる。」で肯定的評価が70%(昨年度78%)となっている。学習活動は学校の中心的な活動であり、満足できるとはいえない。
- ・教科「日本語」は、教職員の評価が低い、他の教育活動と相まって、保護者・生徒でおおむね良好な評価を得ている。
- ・生活指導においては、全般的に良好な評価であるが、昨年度に比べ下降傾向も見られる。
- ・道徳教育においては、教職員の評価が低い。
- ・学校行事においては、高い評価である。事前・事後の活動・指導を含め、学校の努力の結果といえる。
- ・相談活動においては、学年が上がると評価が高まっていることから、生徒・保護者と学校との信頼関係が深まりをみせているといえる。
- ・部活動においては、教員数・施設面の制約がある中、保護者・生徒の高い評価を得ている。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・概ね良好な評価である。
- ・校長のリーダーシップのもと(保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価であり)、教職員が教育活動に励んでいる様子が、アンケートや学校へ公開授業等を通して見える。
- ・安全指導や安全管理は適切に行われているが、保護者への周知の度合いは高いとはいえない。
- ・地域アンケートにおいても、学校運営への評価はおおむね良好といえる。

V. 教育環境の整備について

- ・良好な評価である。
- ・上記Ⅳと同じく、保護者の周知の度合いが高いとはいえない。、教育内容(ソフト面)だけではなく、施設・設備等(ハード面)の保護者への情報提供や理解を深める策が望まれる。

VI. 学校生活全般について

- ・良好な評価である。
- ・生徒アンケート7-(1)「毎日の学校生活が楽しい」74%、7-(2)「深沢中が好きである」67%、保護者アンケート1-(1)「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」77%、独自項目「本校の職員は、子どもたちを大切にしている。」77%等の結果から、生徒・保護者とも学校生活の充足度は高いといえる。
- ・肯定的な評価は微減の傾向であるが、否定的な評価も減少傾向である。経年での推移をみていかなければならない。

Ⅶ. 数値目標について

- ・3項目とも、達成されていない。19・20年度に引き続き項目であり、目標とする数値を更に高いレベルで設定した結果でもある。
前年度の水準を維持できたことを評価するとともに、継続して指導体制・方法の整備が望まれる。
 - ①授業の内容はよく理解できるとする生徒の割合を75%以上にする <評価結果(生徒1ー(1)70%>
 - ②教育相談活動を多くの場面で充実させ、生徒の充足度を60%以上とする <評価結果(生徒6ー(3)50%>
 - ③心の教育を積極的に推進するために、生徒が自主的に企画し運営にあたる活動を重視し、学校行事における生徒の充足度を65%以上にする <評価結果(生徒3ー(3)56%>
- ・継続して今後も①～③の推移をみる必要があるといえる。
- ・数値目標項目の検討も必要である。

3 全方位的な点検・評価について

Ⅰ. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。
- ・重点目標3項目を加え、項目数77は教育活動を網羅するもので適切である。

Ⅱ. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

- ・適切な内容といえる。
- ・評価・課題及び改善方策にも述べられているが、教職員の評価と保護者・生徒アンケートとのギャップがみられる項目に対しては学校における十分な検討が必要といえる。(特に昨年度同様な傾向を示している項目については早急な改善が必要である。)
- ・出納・経理等項目で100%の結果を得ていないことに関しては、教職員の意識等の原因・理由を検証することが望まれる。

Ⅲ. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

- ・報告書並びに説明は、改善方策を含め適当なものである。
- ・多くの改善策が記載されているが、重要度・即時性の必要なものを学校が十分に検討をし、具体的な改善を望む。

4 学校の課題及び学校への提言

○地域との連携において、地域は学校への協力をより望んでいるととれる。学校は今年度より、「地域活動委員会」を設置し、具体的な取り組みの強化を図ってきたことは高く評価できる。次年度以降も地域連携を深める取り組みを継続・実施すること。

○学校協議会の活動等を保護者へ明確に伝えること。

○情報発信に関して、ホームページの改善・更新努力は評価できる。次年度以降も継続すること。

○学習指導においては、全般的に良好な評価に満足することなく、教科・学年等より細かな生徒アンケート等の実施と分析を行い、より高い水準を目指す方策をたてること。

○道徳においては、授業だけではなく、全校・すべての活動で更なる工夫・改善を図ること。研修の実施。

○教科「日本語」においては、研修等の機会を設けること。

○生活指導においては、引き続き今の状態を維持していただきたい。一方で、生徒の服装等大きな乱れとならないよう細かな指導を継続して行うこと。

○学校行事においては、生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒の活動を確保し、より良いものを目指すこと。

○相談活動においては、引き続き生徒の心を捉える体制を進めること。

○進路指導においては、改善のあとが見られる。今後も継続して指導の深めること。また、1・2年生への指導を更に進める方策を実施すること。

○部活動等においては、生徒の生き生きとした活動がみられる。今後も生徒活動の充実を行うこと。

○学校の安全性、安全への配慮等は満たされているといえる。保護者へのアピールを積極的に図ること。

○学年による特性や中一ギャップともみられる明らかな差のある項目がある。アンケート結果を再分析し、改善策等を検討すること。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。
19年度・20年度の結果と比較すると、アンケート結果はプラス評価が高まっているといえた。また、21年度はその水準を維持したといえる。これは学校の努力の成果といえる。しかし、全方位的な点検・評価において、全般的に評価が下がっている。校長がリーダーシップをさらに発揮し改善を望む。
個々のケース・項目により、評価することは難しい面もある。少しでもマイナスを減らし、生徒のため、努力をお願いしたい。

平成21年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長 井坂 聡

委員 伊藤 嘉信

榎本 善子

(事務局)

太田 健二

後藤 彰夫

武田 泰子

吉原 宏

濱田 和幸

山本 勉

山崎 正己

管野 秀樹